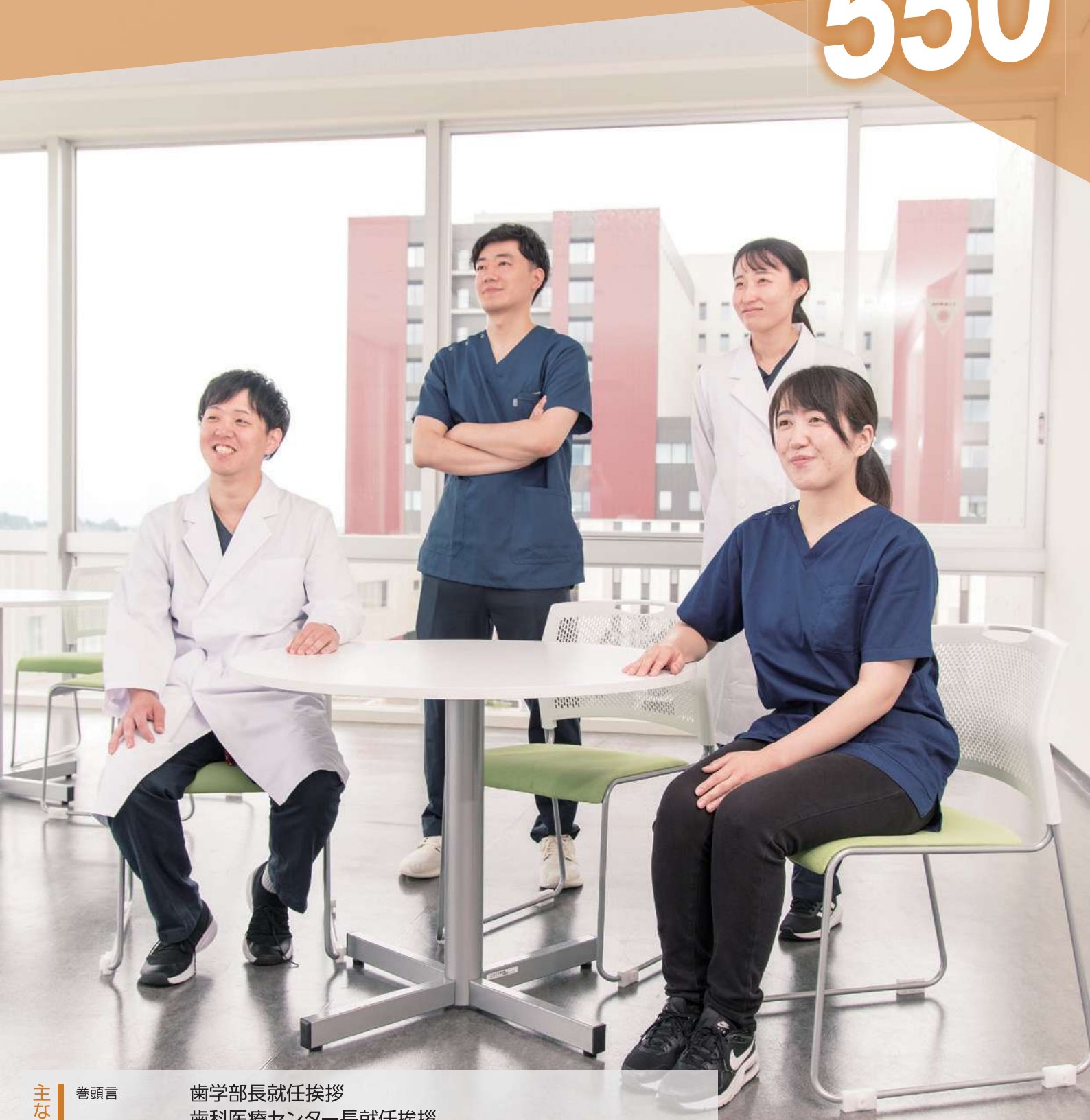




主な内容

- 巻頭言—— 歯学部長就任挨拶
 歯科医療センター長就任挨拶
 医療専門学校長就任挨拶
- 特集—— 医師・歯科医師卒後臨床研修プログラム
- トピックス—— 医大祭2023「黎明 終わりなき逆境と共に歩む」が行われました
- 募金状況報告
- フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.113
 「岩手医科大学附属病院 緩和ケア病棟の紹介」
- 表紙写真(左から): 松田剛臨床研修医、杉内瑛臨床研修歯科医、小山田夕芽臨床研修医、阿部智美臨床研修歯科医(関連記事P.4-7)

歯学部長就任挨拶

レジリエンス (Resilience) -変化の受容と柔軟な対応-

歯学部長 小林 琢也

(補綴・インプラント学講座 摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野 教授)



この度、三浦廣行先生の後任として、2023年10月1日付で歯学部長を拝命いたしました。歯学部創設は1965年、東北大学歯学部と並んで北日本で最初の歯科医育成機関として認可されました。1967年には歯学部附属病院開設、1983年の大学院歯学研究科開設し、その後も着実にその内容を充実させています。今の歯学部があるのも、多くの先輩方がたゆまぬ努力で築かれてきた歴史あるからこそであります。歯学部の更なる発展を遂げることへの重責を深く認識し、身の引き締まる思いです。粉骨碎身の覚悟で職責を全うする所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

歯学部における教育目的は、豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成することです。北東北の歯科医療を守る次世代の歯科医師となる学生さんを育て上げ、良医として世に送り出すことが我々の使命です。現代の歯科医療は「口を治す歯科医療」のみならず「全身の健康に寄与する歯科医療」にパラダイムシフトが起き、国民の健康を守るチーム医療の一翼を担うことが求められています。岩手医科大学は医療系総合大学として歯学部の他に医学部、薬学部、看護学部、医療専門学校を擁しており、学部垣根のない教育・研究・診療の環境の下、患者さん中心の医療、チーム医療の根幹を学ぶことが出来る数少ない大学です。この環境を最大限に生かし、歯科医師として必要な知識、技能、態度を習得し、生まれる前から看取りまで患者さんと共に生きる人間性豊かな医療人を育成する大学であり続けることを目指していきます。

そのため、歯学部の将来も見据え、教育、臨床、研究の軸をしっかりと確立し続けるために体制の整備をしています。10月1日付で歯科医療センター長に山田浩之教授(口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)が就任、11月1日付で歯学部初の副学部長に八重柏隆教授(歯科保存学講座歯周療法学分野)と岸光男教授(口腔医学講座予防歯科学分野)、歯科医療センター副センター長に宮本郁也特任教授(口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)が就任しました。また、歯学部学生部長の八重柏隆教授(副学部長兼任)のもとに学生部副長として石河太知教授(微生物学講座分子微生物学分野)、教務委員長の岸光男教授(副学部長兼任)のもとに副教務委員長として武本真治教授(医療工学講座)を任命させていただきました。教育委員長の佐藤和朗教授(口腔保健育成学講座歯科矯正学分野)、歯学部研究科教務委員長の石崎明教授(生化学講座細胞情報科学分野)には留任していただいております。この新しい体制のなか歯学部一丸となり、喫緊の課題である入学生の確保、留年率の低下、国家試験合格率の価値維持に取り組み、次世代の歯科医療を担う歯科医師を輩出していく所存です。

最後に、表題に記しました「レジリエンス」とは、「回復力」「復元力」「耐久力」「再起力」「弾力」などと訳される言葉です。歯科医療、歯科大学を取り巻く環境が大きく変化の中で、その変化を受容し、困難をしなやかに乗り越え回復する力を持って、歯学部の生き残りをかけた戦いに挑む所存です。皆様のご協力とご指導を切にお願い申し上げ就任のご挨拶といたします。

歯科医療センター長就任挨拶

歯科医療センター長 山田 浩之

(口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 教授)



歯科医療センターは、1967年に岩手医科大学歯学部附属病院として開設以来、半世紀にわたり診療体制を拡充しながら、北東北全域の歯科医療の一翼を担ってまいりました。現在、岩手医科大学附属内丸メディカルセンターの1部門として、最新の設備と確かな診断力により、皆様の口腔機能の改善、生活の質の向上につながる診療を展開しております。

近年、様々な研究から、生活習慣病などの内科疾患や認知機能と、咀嚼や嚥下などの口腔機能の関連が指摘されており、口腔機能の向上と維持が健康寿命を延ばす鍵になることが知られています。高齢化が加速し、全身の健康状態や生活環境が複雑化するに伴って、歯科医療に対するニーズも多様化しておりますが、当センターでは他の診療科と連携しながら、専門性の高い

チームで良質な医療を提供できるよう努めています。

また、次世代の人材の育成と、高度化する歯科医療の研究開発を両輪とする教育、研究施設としての役割を果たすことは、重要な使命です。本学建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」の理念の下、歯学部の学生や臨床研修歯科医が現場で患者の皆様と関わる時間を最大限に生かす指導を心掛け、信頼に足る歯科医師に成長することを目指しております。

当センターでは、今後も安心、安全で質の高い歯科医療の提供に努め、皆様のご期待に沿えるよう、スタッフ一同ベストを尽くしてまいります。将来にわたり持続可能な歯科医療の発展のため、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

医療専門学校長就任挨拶

医療専門学校長 小林 琢也

(補綴・インプラント学講座 摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野 教授)



この度、2023年10月1日付で、岩手医科大学医療専門学校長を拝命しました。本校は、1964年4月に創設された岩手県立衛生学院歯科衛生学科の移管を受け、2004年に、3年制の岩手医科大学歯科衛生専門学校として開校し、2011年に岩手医科大学医療専門学校歯科衛生学科として新生いたしました。これまで数多くの卒業生を輩出してきた歴史ある学校です。本校の教育目的は「医療・福祉の分野における社会の要請に応えるため、歯科衛生士に必要な専門の知識及び技術を修得させ、もって地域社会に貢献できる歯科衛生士」を養成することです。その責務をしっかりと果たしていきたいと考えております。

これまで歯科衛生士の3大業務は、歯科医師の診療が円滑に進むようサポートする歯科診療補助、う蝕

や歯周病を予防する歯科予防処置、健康な歯を維持するための歯科保健指導でした。これに加え、高齢者や全身疾患を持つ患者さんに対して多職種連携医療チームの一員として、口腔衛生管理や口腔機能のリハビリテーションを実施するなどの幅広い活躍が求められるようになりました。歯科医療と歯科衛生士を取り巻く環境が大きく変化する中で、医系総合大学で学ぶことのできる専門学校であるアドバンテージを生かし、入学者の充足率向上を図ると共に、さらなる教育の充実を図り、有能な人材を世に送り出し続けることを使命とし、教員と事務員と一丸となって医療専門学校を運営していく所存です。これからも皆様のご協力とご指導を切にお願い申し上げ就任のご挨拶といたします。

特集

医師・歯科医師 卒後臨床研修プログラム

当院では、大学病院ならではの希少な高度医療の研修をはじめ独自のプログラム、研修体制で臨床研修医・臨床研修歯科医を支援しています。

本号では、医師・歯科医師卒後臨床研修プログラムの特徴を紹介します。

卒後臨床研修とは

診療に従事しようとする医師・歯科医師は、国の指定を受けた研修施設（病院・診療所など）で臨床研修を受ける必要があります。医師は2年以上、歯科医師は1年以上の臨床研修が義務付けられています。研修を行う施設は医師・歯科医師臨床研修マッチングを経て決定し、多くの国家試験合格者は4月から臨床研修がスタートします。

本学では、医師卒後臨床研修センターが附属病院、歯科医師卒後臨床研修センターが附属内丸メディカルセンターに設置され、臨床研修医・臨床研修歯科医の研修をサポートしています。

医師卒後臨床研修センター

■研修期間：2年間

■募集プログラム

（1）基本プログラム：36名

（2）産婦人科・小児科・周産期プログラム：4名

■指導医：202名

■診療科：32

■研修協力病院・施設：40施設



医師卒後臨床研修センターのホームページはこちら

すぐ側に各分野のエキスパートが常について、厚いバックアップがある大学病院と地域に密着した院外研修の双方を経験することで、自由度の高い研修を行うことができます。

また、大学病院の特性を活かし、専門医・認定医を視野に入れた専門研修が可能で、臨床研修終了後の進路として、新専門医制度に対応した専門研修プログラムを準備しています。専門教育のための施設として様々な学会認定を受けており、その後のサブスペシャリティ領域専門医の取得も見据えた充実度が高い専門研修が可能です。

歯科医師卒後臨床研修センター

■研修期間：1年間

■募集プログラム

（1）管理型歯科医師臨床研修プログラムA：20名

（2）管理型（複合型）歯科医師臨床研修プログラムB：45名

■指導歯科医：64名

■診療科：11

■研修協力病院・施設：76施設



歯科医師卒後臨床研修センターのホームページはこちら

平成18年に歯科医療センター歯科医師卒後臨床研修センターとして発足。歯科医療センターではそれにさきがけ、平成15年に総合診療室を開設し、以降卒後臨床研修及び学生臨床実習に対応するため、指導人員及び設備、研修組織の充実を図りながら、卒後臨床研修体制の環境整備をしてきました。歯学部を卒業し、本センターで1年間の臨床研修プログラムを修了すると一人前の歯科医師として本格的に診療を行うことができるようになります。

岩手医科大学だからできる！

大学病院ならではの教育体制の中で最先端医療の研修を実施しています。「岩手医科大学だからできる」当院の特徴的な研修や設備をご紹介します。

■ 大学病院ならではの希少な高度医療を研修

特定機能病院として高度な先進医療を実践する附属病院は、大学病院ならではの多彩な診療科を有し、臨床研修医・臨床研修歯科医が経験できる症例也多岐にわたっています。各科の経験豊かな専門医が揃っており、きめ細かい指導を受けることのできる体制と診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いています。最先端の施設・設備による高度な研修支援を受けることができます。



■ 自由度の高いオーダーメイドローテーション

附属病院及び附属内丸メディカルセンターの研修は、非常に自由度が高く、週単位で個々のニーズに合わせたローテーションの設定が可能です。大学病院の特徴である幅広い診療科と豊富な専門プログラムから自分にあった研修を選び、県内外の協力病院・協力施設から自由に院外研修先を選定し、地域に密着した研修をすることも可能です。



■ 臨床研修医短期海外派遣事業

平成28年度から本学が事業実施事務局となり、岩手県による「臨床研修医短期海外派遣事業」が行われています。附属病院もしくは岩手県内の臨床研修病院に在籍する臨床研修医が対象で、視野拡大とキャリアパス形成を目的に意欲のある研修医が参加しています。海外の医療施設や診療の見学、カンファランスへの参加や意見交換・交流が主な研修内容となっています。



左から：小山田臨床研修医、加納米国日本人医師会長

■ 臨床研修医等のための宿舎完備

医師確保および高度専門医療を担う人材育成に係る環境整備の一環で建設された本宿舎は、附属病院と連絡通路で接続され、屋内での往来ができる設計です。防音機能やプライバシーに考慮され、安心・快適な住居空間を確保しています。本学附属病院の臨床研修医、専門研修医、高度看護研修センター研修生等の他、他病院に在籍しながら本学附属病院で短期間研修をする院外研修医も利用可能です。



■ 卒後最短4年で学位が取れる社会人大学院制度

臨床研修や専門研修を行いながら大学院で高度な専門性を培うとともに、臨床経験に基づいた独創的な研究ができ、早い段階で学位取得が可能で、その後じっくり自分の希望する臨床の専門分野を追求することができます。

医師卒後臨床研修センター

伊藤 薫樹 センター長（内科学講座血液腫瘍内科分野 教授）**Q 多彩な研修が特徴だとお聞きしました。どのような研修が行われているのでしょうか？**

当院の臨床研修では幅広く見て深く考える習慣を身に付けることを目的として、診療科を横断して自由な討論により症例を検討する「GRAND ROUND」、臨床科と病理部門の共同により剖検症例を詳細に検討・分析する「CPC(臨床病理カンファランス)」、エコーの基本操作から診療に活用する

ポイントを学ぶ「エコレジ」など、多くの研修機会を用意しています。



エコレジ（エコー for レジデント）

Q 連携している病院はありますか？

当院は岩手県内 35 施設および岩手県外 5 施設の研修協力病院・施設と連携して臨床研修を実施しており、興味がある地域の臨床研修施設において一定期間研修を行うことが可能です。さらに、地域医療について岩手県内の 14 施設と連携して研修を行っていることから、地域の特性に応じた医療を学ぶことができます。

Q 指導体制について教えてください。

十分な臨床経験と指導方法を有する指導医が多数おり、研修医個々の研修状態を把握しながら情熱をもって徹底した指導にあたっています。さらに定期的に医師卒後臨床研修センター長および副センター長との個人面談を実施する他、日常的な関わりの中で研修中の悩みや要望を聞き、研修の充実を図っています。



指導医によるきめ細やかなサポート

Q 最後に

当院の研修プログラムの特徴は、様々な疾患を多角的に捉え、深く学ぶことができる環境が整っていることと、必修科目以外の期間を自由に選択研修できることにあります。特定機能病院であり、興味のある診療科や将来専攻する診療科を中心に、オーダーメイドで組み立てることが可能です。『誠の人間の育成』を建学の精神に掲げる岩手医科大学での研修を通じて、高い倫理観に裏打ちされ、病み悩める患者さんやご家族に誠実に向き合い、医学の真理を追い求める医師たるべく、その礎を築いていただきたいと思います。

自由度の高い研修カリキュラムが魅力 松田 剛 2 年次臨床研修医**Q 医師を目指したきっかけを教えてください。**

もともと理系に興味があり将来は研究職に就きたいという希望がありました。幅広く学べる学部で学びたいと思い、医学部に入学しました。

Q 岩手医大の臨床研修の環境はいかがですか？

岩手県では、県立病院はコモディージーズが中心となっていますが岩手医大は複雑な疾患の取り扱いが多い為、様々なことを学ぶ機会が多いです。また、先生方も丁寧に教えてくださるので研修環境はとてもいいと思います。

Q 岩手医大の臨床研修の魅力は何でしょう？

いい意味で自由であることだと思います。自由度の高いオーダーメイドローテーションは当院の特徴でもあり、一人ひとりのニーズに合わせた研修スケジュールを組めるので、時間を有効的に使うことができますし、プライベートな時間もしっかり作ることができます。

Q 最後に、医師としての目標を教えてください。

医学部での臨床を経験していく中で腎臓や膠原病といった免疫に関して興味を持ちました。今は感染症に対して強く関心があり、岩手県には感染症専門の医師が少ないので、感染症の医師として岩手に貢献したいと考えています。

佐藤 健一 センター長（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野 教授）

Q 2つのプログラムの特徴を教えてください。

本学の歯科臨床研修では、2つのプログラムを有しております。1年を通じて本学において研修を行う「管理型臨床研修プログラムA」と、1年のうち本学において9か月間、協力型臨床研修施設において3か月間の研修を行う「管理型（複合型）臨床研修プログラムB」があり、各々の臨床研修修了後のキャリアをイメージしながら研修をすることが出来ます。



Q 附属病院と連携した研修体制



内丸メディカルセンター歯科医療センター各診療科外来での研修と併せて、両プログラムともに岩手医科大学附属病院入院病棟での「病棟・全身管理研修」を行います。「病棟・全身管理研修」では、入院患者の管理を行うために必要な基本的知識、態度、技能を身に付け、周術期における基本的な口腔機能管理について研修します。

Q 卒後臨床研修症例発表会



臨床研修の修了時には、症例発表会を実施します。各研修歯科医は、外来研修において経験した症例をまとめ、ポスターセッション形式で発表を行います。発表後には指導歯科医や教員による質疑が行われ、1年の集大成として意義のある振り返りとなります。また、発表内容については報告書を作成し、研修の成果として報告集にまとめられます。

Q 最後に

岩手医科大学における歯科医師卒後臨床研修は、本学の建学の精神である「誠の人間を育成する」ことに通じる人間性豊かな歯科医養成を目指しています。本学にて64名の指導歯科医によりそれぞれの専門を中心に研修の指導を行い、県内外にある医療機関で構成される協力型臨床研修施設、県内の保健所や国保歯科診療所で構成される研修協力施設では、大学病院では経験することが出来ない特色ある臨床研修が行えます。本学での臨床研修は、生涯研修の第一歩として位置づけられている研修として、実り多きものとなるものと確信いたしております。

阿部 智美 臨床研修歯科医 **医療機器、研修環境が充実**

Q 歯科医師を目指したきっかけを教えてください。

高校時代、硬式野球部でマネージャーをしていましたが、練習中に打球が顔に当たり下顎骨を骨折しました。そのときの診療を受けた経験から歯科医師を志しました。

Q 岩手医大の臨床研修の環境はいかがですか？

選択したプログラムや研修内容によって、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターの2つの病院での研修が可能な為、設備の違う医療現場を経験できます。また、多くの指導歯科医からそれぞれの専門分野の指導をしていただける為、分からないことをすぐに聞ける環境が整っています。



Q 岩手医大の臨床研修の魅力は何でしょう？

大学病院ということもあり診療科が多岐にわたっているので、他の病院や施設では経験できない疾患についても学ぶことができ、医療系総合大学としての特色を活かし最先端医療を実施している環境で研修できる点が大きな魅力だと思います。

Q 最後に、歯科医師としての目標を教えてください。

臨床研修修了後は、東日本大震災被災地でもある地元の宮城県石巻市に戻り、地域医療に貢献したいと考えています。研究職も考えましたが、やはり「目の前の患者さんを診る」という気持ちが自分の中では大きいです。

大学院医学研究科秋季入学式が挙行されました

10月2日(月)、本部棟4階大会議室において、令和5年度大学院医学研究科秋季入学式が挙行されました。大学院医学研究科では、今年度から秋季入学制度が導入され、第1期生に2名の入学生を迎えました。

式では、祖父江学長から「研究分野においてこれから初めて経験することが多々あると思うが、色々な分野に興味を持ち自分の可能性を広げてほしい」と激励の言葉を送りました。



祖父江学長から激励の言葉を受ける新入生

動物慰霊祭が行われました

10月2日(月)、大堀記念講堂で、第56回動物慰霊祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生が参列しました。

式では、昨年度教育及び研究に供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長並びに医学部3年生瀧澤友理さんから慰霊のことが捧げられました。続いて、那谷動物研究センター長から挨拶があり、慰霊祭が終了しました。

式終了後、参列者全員が慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



慰霊のことが (医学部3年生 瀧澤さん)

内丸キャンパス旧附属病院の医療用ベッド等の処分が行われました

10月4日(水)～13日(金)、内丸キャンパスにおいて、旧附属病院で使用していた医療用ベッド等の処分が行われ、事務局職員らが作業を行いました。

この取り組みは、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施を見送っていた旧附属病院の残置物処分の一環であり、今回で約74,450kgの備品を処分、リサイクルすることができました。

旧附属病院の残置物処分は、複数年度に分けて実施する予定であり、今後も世界的な取り組みであるSDGs(持続可能な開発目標)に沿って、可能な限り、リサイクルやリユースを中心とした処分を行ってまいります。



解体風景



移動風景



積込風景

薬学部4年生対象の筋肉注射実習が行われました

10月18日(水)、マルチメディア棟2階AB実習室において、薬学部4年生を対象とした筋肉注射(ワクチン接種)の実習が行われました。

日本では、薬剤師によるワクチン接種は認められていませんが、コロナ禍における社会的な議論を受けて、東北地区の薬学部として初の取り組みとなりました。共通基盤看護学講座の菖蒲澤教授、柏木特任准教授、松田助手の指導のもと、練習用パッドを用いて手技を練習しました。薬学部では、次年度以降も本実習を必修科目として継続し、看護学部との連携により、薬剤師の職能向上と将来のワクチン接種ニーズに対応できる人材の育成を目指します。



看護学部教員の指導のもと筋肉注射を打つ薬学部学生

医大祭 2023「黎明 終わりなき逆境と共に歩む」が行われました

11月4日(土)・5日(日)の両日、矢巾キャンパスにおいて、医大祭が開催されました。今回のテーマは『黎明 終わりなき逆境と共に歩む』と題され、新型コロナウイルス感染症の流行から3年以上が経過し、社会全体が新たに動き出そうとしている中で私たちも前に進みたいという思いが夜明けの意味を持つ「黎明」という言葉に込められています。

各クラブが出店する模擬店の他、キャンパス内では各研究室による学術展示コーナーや公開実験、体育館では、C&C (Cool and Cute) コンテストやお笑いライブ(ハリウッドザコシショウ、だーりんず)等が行われ、両日ともに多数の学生、教職員、地域住民の方たちで賑わいました。

実行委員の学生たちは、慣れない準備や調整で困難も多い中、医大祭を通じ学部の垣根を越えて繋がりを強くしたようです。



駐車場の模擬店ブース



軽音楽部公演(体育館)



さんさ踊り部公演(大堀記念講堂)



彩られたキャンパスモール



C & C カフェ

イオンモール盛岡で脳卒中・心臓病等総合支援センター主催イベント「健康フェスタ」が行われました

11月4日(土)、イオンモール盛岡(前潟)で今年の5月に開設された脳卒中・心臓病等総合支援センター主催イベント「健康フェスタ」が行われました。

このイベントは脳卒中・心臓病に関する正しい知識を身につけてもらうことを目的に行われ、小笠原病院長とお笑い芸人の天津木村さん、アンダーエイジさんとのトークセッションの他、看護師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、理学療法士による幅広い年代が楽しめる健康増進コーナーが多数用意されました。

脳卒中・心臓病等総合支援センターの紹介を次号の特集記事で掲載いたします。本イベントについても取り上げますので次号をお楽しみに!



小笠原病院長、天津木村さん、アンダーエイジさんのトークセッション

放射線腫瘍学科の菊池 光洋 特任講師が 日本医学放射線学会北日本地方会で優秀演題賞を受賞しました

私は、JCOG放射線治療グループの若手会やJROSG泌尿器腫瘍委員会に参加しており、放射線治療の新規臨床試験案の作成・検討を行っています。膀胱癌患者は高齢者が多く、放射線治療のアンメットニーズがあると考えていますが、基礎データは充分ではありません。今回報告した【岩手県2施設における膀胱癌原発巣に対する放射線治療の状況と生存期間の検討】は、私の知る限り国内の報告の中で最も多い症例数で膀胱癌放射線治療後の生存期間を検討したものです。findingとして、80歳以上Stage II-III膀胱癌に対する60Gy以上の放射線治療は手術療法に匹敵ないし上回る生存期間が得られる可能性を示しました。今後このテーマは、多施設共同臨床試験として前向きに検証したいと考えております。謝辞として、松岡祥介先生、岩手医科大学および岩手県立中央病院の泌尿器科の先生方には深く感謝申し上げます。

(文責：放射線腫瘍学科 特任講師 菊池 光洋)



内科学講座消化器内科分野の阿部 珠美 助教が 肝血流動態・機能イメージ研究会で板井賞を受賞しました



黒田特任教授、阿部助教、松本教授

この度、第29回肝血流動態・機能イメージ研究会において、『Subharmonic Aided Pressure Estimationを用いた慢性肝疾患の食道胃静脈瘤合併予測』という発表にて板井賞を受賞致しました。門脈圧亢進症という肝疾患領域における重要な病態について、造影超音波を用いた非侵襲的モダリティの有用性を報告させて頂きました。国外での報告が散見されていますが、国内での報告がなく、その新規性、重要性、有用性をご評価頂いたものと考えております。患者負担をより軽減できる低侵襲なモダリティであり、簡便かつ誰もが使用できる超音波機器の普及、発展にも繋がるものではないかと考えております。このような貴重な発表の機会を頂き、さらにご評価を頂き栄誉を賜りましたこと、心より嬉しく思います。ご指導頂きました黒田特任教授、松本教授、また医員のみなさまに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

(文責：内科学講座消化器内科分野 助教 阿部 珠美)

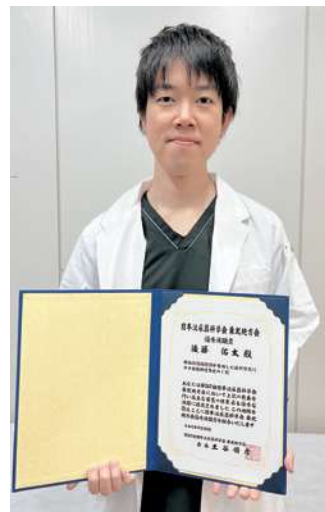
泌尿器科学講座の後藤 佑太 専門研修医が 日本泌尿器科学会東北地方会で優秀演題賞を受賞しました

この度、第267回日本泌尿器科学会東北地方会（令和5年9月30日：山形市）において、演題「根治的腎摘除術が奏功した透析腎癌に伴う好酸球増多症の1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

二次性好酸球増多症の要因として固形腫瘍は稀な疾患であり、要因としてサイトカインの関与が指摘されていますが透析腎癌に伴う報告はこれまでありませんでした。また透析患者様に関しては、好酸球増多を認めた際に透析に関連した影響を第一に考慮することが多く、本症例でもその鑑別に苦慮致しましたが、原発巣の治療を行う事により好酸球増多症の改善を得られました。本症例について好酸球増多症の鑑別疾患、固形腫瘍に伴う好酸球増多症とサイトカインの関連性、加療中の好酸球推移の詳細な検討を行い発表しました。今回の賞は、これらの検討考察について御評価頂いたものと考えております。

今回の発表に際して、小原教授をはじめとする当講座の医局員の先生方、病理診断学講座の柳川教授に御指導を賜りました。さらにご協力を頂きましたスタッフの方々に深く御礼申し上げます。

(文責：泌尿器科学講座 専門研修医 後藤 佑太)



表彰の栄誉

泌尿器科学講座の野崎 泰資 専門研修医が 日本泌尿器科学会東北地方会で優秀演題賞を受賞しました



この度、9月30日に山形で開催されました第267回日本泌尿器科学会東北地方会にて、演題「ニボルマブ・カボザンチニブ併用療法により病理学的完全奏功し得た下大静脈腫瘍栓伴う腎細胞癌の一例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。腎癌に対しニボルマブ・カボザンチニブ術前投与により病理学的完全奏功を報告した症例は、これまでないかと思われます。貴重な症例を勉強させていただいたとともに、小原教授、五十嵐助教、高橋健太専門研修医をはじめ多くの先生方の支えがあった今回の発表を受賞というかたちで結果を示せたことに大変嬉しく思います。

また、今回は後藤専門研修医も優秀演題賞に輝き、岩手医科大学として優秀演題ダブル受賞という最高のかたちで締めくくることができました。遠い勤務先から大学まで足を運び、準備を進める後藤専門研修医の姿も見えており、尊敬の念しかありません。

知識も含めてまだまだ至らぬ点ばかりですので、今回の結果に過信せず、ひとつの自信として今後とも診療に努めていきたいと思ひます。小原教授含めご指導いただきました当講座医局員の先生方、誠にありがとうございました。

(文責：泌尿器科学講座 専門研修医 野崎 泰資)

大学院医学研究科博士課程4年生の熊谷 秀基 さんが 内視鏡外科フォーラムで優秀演題賞を受賞しました

この度、令和5年5月20日に開催された第34回内視鏡外科フォーラムin盛岡の初期研修医・専攻医優秀演題セッションにおいて、「原発性アルドステロン症を併発した高度肥満症患者に対する二次的治療戦略」という演題で、優秀演題賞を受賞しました。

本演題は、原発性アルドステロン症を合併した高度肥満症患者に対して、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を先行し、減量・代謝改善効果が得られた後に、安全に腹腔鏡下副腎摘出術を施行できたという臨床経験を報告させて頂きました。高度肥満症患者に対する二次的治療戦略は、これまでも当教室の先生方が学会や論文で報告し、エビデンスを積み上げて来た領域であり、同テーマで受賞できたことを嬉しく思います。

最後に、佐々木章教授、梅邑准教授をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

(文責：大学院医学研究科博士課程4年 熊谷 秀基)



熊谷先生、佐々木教授

外科学講座の菊地 晃司 非常勤医師が 環太平洋外科系学会日本支部学術大会で Wada Award を受賞しました



片桐准教授、菊地先生、新田教授

この度、令和5年8月21日～23日にHonoluluで開催された The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter において、「Risk-adjusted assessment of learning curve for pure laparoscopic donor hepatectomy for adult recipients」という演題で、Wada Award (Gold Prize) を受賞しました。

本学会は、わが国で初めて心臓移植を施行した和田壽郎先生が1984年に第1回を開催され、外科系若手医師の海外での英語による学会発表にチャレンジする登竜門としての役割を果たして参りました。本演題は、わが国で先駆けて行ってきた当科の腹腔鏡下ドナー肝切除術のラーニングカーブについて報告しました。本術式におけるラーニングカーブの報告は、右葉切除術または外側区域切除術に限られていま

すが、両葉を含めた研究は世界で初報告であり、名誉あるWada Awardを受賞できたことを大変嬉しく思います。

最後に、佐々木章教授、新田教授、片桐准教授、梅邑准教授をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

(文責：外科学講座 非常勤医師 菊地 晃司)

表彰の栄誉

救急・災害医学講座に配属している医学部5年生の5名が 全国医学生 CPR 選手権大会北海道・東北大会で準優勝しました

この度、本学医学部5年生の5名が全国医学生CPR選手権大会北海道・東北大会で準優勝となり、全国大会への出場権を獲得いたしました。

この大会は全国の医学生の心肺蘇生法（CPR：cardiopulmonary resuscitation）を含めた一次救命処置（BLS：basic life support）の知識・技術の向上を目的に、2015年から行われているものです。

今回出場した5名は自主的に参加を希望し、本大会に向けて放課後も積極的に特訓を行っておりました。また高次臨床研修も救急科を選択し、実際の蘇生にも積極的に参加しており、彼らのCPR技術は我々現場スタッフ以上のものとなっております。大会では参加大学の中でも特に積極的に声をかけあい、見事なチームワークを見せ、総合順位では惜しくも2位ではありましたが、チーム技術では見事1番の評価を受けておりました。

11月26日には東京の国際医療研究センターにおいて全国大会が行われますが、ここでも見事なチームワークを見せてくれるものと思います。

（文責：救急・災害医学講座 専門研修医 星 真太郎、睡眠医療学科 専門研修医 峯田 武典）



左から：三宅涼太さん、洲崎摩周さん、
水沼茉莉花さん、山浦千咲さん、
日比茉莉奈さん

テナント紹介

矢巾・内丸キャンパスには多数の店舗が入店し、教職員、在学生、患者さん等へ様々なサービスを提供しています。身近だけど意外と知らなかった各テナントの紹介、おすすめやお得情報を掲載していきます。第7弾となる本号では、HOW内丸メディカルセンター店と歯学部売店をご紹介します。

HOW 内丸メディカルセンター店（入院棟2階）



当店では、弁当・おにぎり・パンのほか、飲料・加工食品・菓子・日用品など様々なカテゴリーの商品を取り揃えております。

珍しいところでは、ネットで評判な岩手町の「ブルーランジェリー グールマン」の手作りパンや、牛丼チェーン「松屋」のお弁当を数量限定で取り扱っており、購入されたお客様にご好評を頂いております。

お近くのお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。皆様のご来店をお待ちしております。

営業時間 平日：10：00～14：00

歯学部売店（歯科医療センター1階）

国家試験の問題集や参考書、教科書などの歯学書籍、歯科の実習材料などの注文販売、歯ブラシなどのオーラルケア用品の販売をしています。また、患者さん一人ひとりにあったセルフケア製品提案をサポートしています。

う蝕予防に歯周ケア、リスク部位のポイントケアに是非いらしてください。

営業時間 平日：8：30～17：00
土曜（第1・4）：8：30～12：30



今夏の省エネ活動結果について

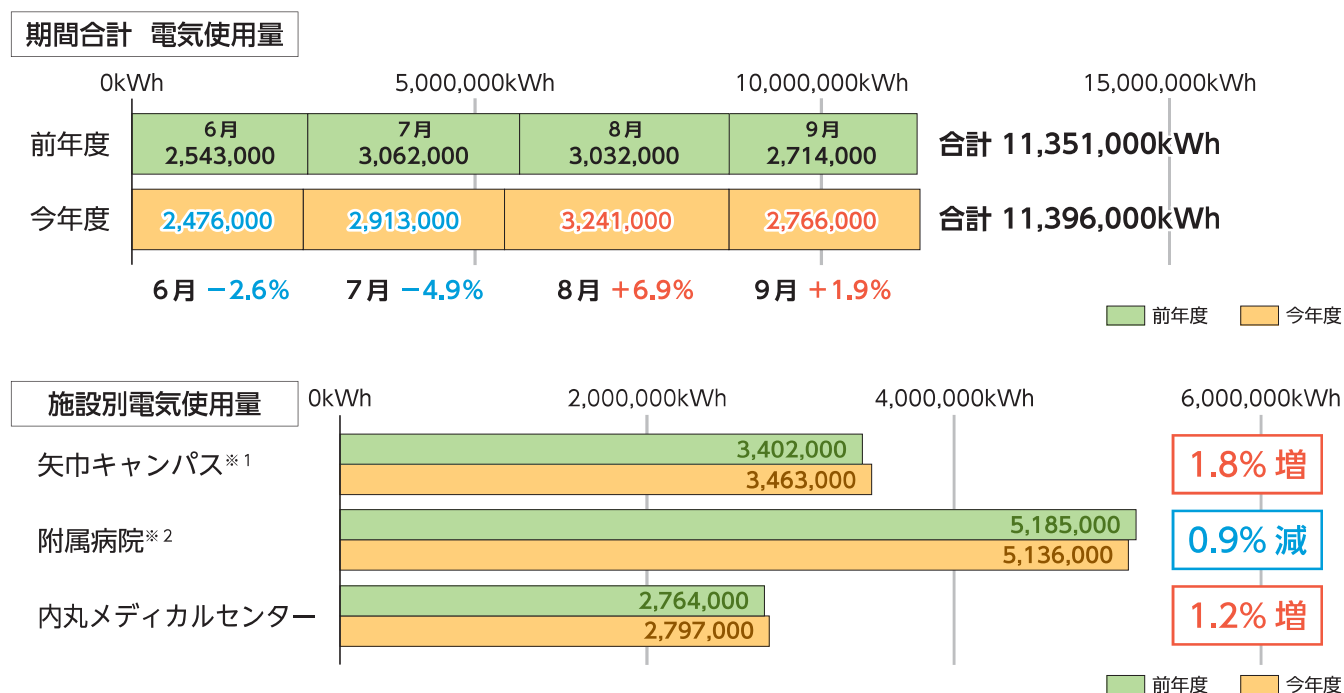
職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
令和5年6月から9月まで実施しました「夏季の省エネ活動」について、ご報告いたします。

省エネ活動計画概要

- 【実践期間】 令和5年6月1日～9月30日まで
- 【削減目標】 電気使用量の多い主要3施設（矢巾キャンパス、附属病院、内丸メディカルセンター）の実施期間の合計電気使用量を前年度比で1%削減
- 【実践項目】
- 冷房設定温度及び空調運転時間の調整
 - 不要な照明の消灯
 - 待機電力の低減
 - 啓発ポスターの掲示
 - 施設課によるパトロールの実施
 - クールビズの実施（令和5年5月1日から10月31日まで）

省エネ活動実施結果

《結果》 前年度比 **0.4%増加（45,000kWh 増）**



※1 対象施設：矢巾キャンパス校舎、マルチメディア教育研究棟、超高磁場先端MRI研究センター、動物研究センター

※2 対象施設：附属病院、エネルギーセンター

今夏は実施期間の削減目標値を前年度比1%削減と設定し、目標達成に向け様々な取り組みを実施しましたが目標には届かず0.4%の増加という結果となりました。

増加の主な要因としましては、活動期間中である8月～9月の気温がかなり高く推移したことにより、空調負荷が増えたことがあげられます。特に8月は、全ての日で真夏日を記録したほか、平均気温も前年度に比べ上旬で3.8℃、中旬で3.1℃、下旬で6.7℃も高い状況でした。

なお、環境省の報告によりますと、東北では気温が1℃上昇すると電力使用量が1%程上昇するとあります。今夏の気温傾向を考えますと、職員の皆様方には例年以上に省エネに取り組んでいただいた成果として、0.4%の増加に留めることができたとも言え換えることができるかと思えます。

夏季の省エネ活動にご協力いただきまして、ありがとうございました。

理事会報告（9月定例－9月25日開催）

1. 理事の職務担当区分について

2. 評議員の選任について

第3号評議員

歯学部補綴・インプラント学講座

摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野 教授 小林 琢也

（任期 2023年10月1日から2026年3月31日まで

他の評議員の残任期間）

3. 役職者の選任について

岩手医科大学医療専門学校長 小林 琢也（新任）

（任期 2023年10月1日から2024年3月31日まで

前任者の残任期間）

4. 教員の人事について

統合基礎講座解剖学講座発生生物・再生医学分野 特任教授

大津 圭史（前 同分野 准教授）

統合基礎講座法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 特任教授

熊谷 章子（前 同分野 准教授）

歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野 特任教授

佐々木 大輔（前 同分野 准教授）

歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 特任教授

泉澤 充（前 同分野 准教授）

歯学部歯科保存学講座う蝕治療学分野 准教授

浅野 明子（前 同分野 講師）

歯学部口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 特任准教授

桑島 幸紀（前 同分野 講師）

（発令年月日 2023年10月1日）

教養教育センター人間科学科哲学分野 准教授

林 研（現 大阪保健医療大学保健医療学部等 非常勤講師）

（発令年月日 2024年4月1日）

5. 学則改正年月日の変更について

令和6年度の医学部収容定員（35名（岩手県地域枠）の臨時定員増）に係る学則改正年月日について、学則変更認可日に変更することを承認した。

理事会報告（10月定例－10月30日開催）

1. 学長の選任について

現学長の任期は、2024年3月31日をもって満了となることから、次期学長に小笠原邦昭氏を選任した。

（任期 2024年4月1日から2028年3月31日まで）

2. 理事の競業について

3. 役職者の選任について

歯学部副学部長 岸 光男（新任）

歯学部副学部長 八重柏 隆（新任）

（任期 2023年11月1日から2024年3月31日まで

歯学部長の残任期間）

4. 組織規程の一部改正について

事務局の組織体制について、管理体制の強化及び円滑な人事ローテーションによる組織の活性化を企図して、現行の3部体制から矢巾移転前の5部体制に再編すること、役職の増設に伴う人件費は予算の範囲内で行うこととし、組織規程の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

新任教授の紹介

令和5年11月1日就任

内科学講座呼吸器内科分野

川田 一郎 (かわだ いちろう)

昭和47年12月12日
栃木県佐野市出身



教職員への自己PR

医学部内科学講座呼吸器内科分野教授を拝命致しました。呼吸器内科は、腫瘍、炎症、アレルギー、感染症など幅広い分野の疾患を対象にしております。全身疾患と併存する病態も多く、全診療科の先生方との緊密な連携により成り立っております。安全安心で質の高い医療の提供、将来を担う人材の育成を使命とし、本学の発展に貢献できる教室となるよう力を尽くす所存です。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成10年3月 慶應義塾大学医学部 卒業
平成10年4月 慶應義塾大学医学部内科学教室 研修医
平成12年5月 埼玉県立循環器・呼吸器病センター内科 専修医
平成13年6月 東京歯科大学市川総合病院内科 助手
平成14年6月 慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科学 助手
平成17年7月 日野市立病院内科 主任医員
平成22年1月 米国シカゴ大学医学部血液・腫瘍内科 博士研究員
平成25年4月 東京都済生会中央病院内科(呼吸器内科) 副医長
平成26年4月 慶應義塾大学医学部内科学(呼吸器) 助教
平成27年10月 慶應義塾大学医学部内科学(呼吸器) 専任講師
令和4年7月 慶應義塾大学保健管理センター 准教授
令和5年11月 現職

研究テーマ

肺癌・悪性胸膜中皮腫の病態解明と治療法の開発

主な著者論文

- ・肺癌オルガノイドライブラリの包括的解析を用いた、肺癌の不均一性の解明 (Cell Rep 2023; 42:112212.)
- ・非小細胞肺癌における MET/ RON 二重阻害剤 LY2801653 の効果 (Cancer Res 2014; 74:884-95.)
- ・非小細胞肺癌患者における上皮成長因子受容体遺伝子変異の RFLP 法によるスクリーニング法の確立 (J Thorac Oncol 2008; 3:1096-103.)

趣味

水泳

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第15回目のご芳名紹介です。(令和5年8月1日～令和5年9月30日)

■ 法人・団体等 (1件)

<20,000,000>

株式会社 こずかたサービス (岩手県紫波郡)
(敬称略)

■ 個人 (4件)

<100,000>

<ご芳名のみ>

藤井 謙 (医27) 田中 斎 (父母)

<10,000>

高橋 薫 (医49)

志波 佳世 (医67)

(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	388	198,338,220
在 学 生 ご 父 母	284	75,830,000
役員・名誉教授	38	42,570,000
教 職 員	40	6,720,000
一 般	21	483,952,572
法 人 ・ 団 体	228	161,755,481
合 計	999	969,166,273

(令和2年9月1日～令和5年9月30日現在)

創立120周年記念事業募金

第54回目のご芳名紹介です。(令和5年8月1日～令和5年9月30日)

■ 法人・団体等 (1件)

<60,000,000>

株式会社 こずかたサービス (岩手県紫波郡)
(敬称略)

■ 個人 (2件)

<10,000>

<ご芳名のみ>

志波 佳世 (医67) 山本 彬 (医59)

(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,115	673,205,089
在 学 生 ご 父 母	933	548,622,000
役員・名誉教授	103	127,720,000
教 職 員	270	36,372,000
一 般	148	50,285,010
法 人 ・ 団 体	413	1,358,404,000
合 計	2,982	2,794,608,099

(平成26年6月1日～令和5年9月30日現在)

Jブロック外来（耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来）

Jブロック外来は、頭頸部外科・耳鼻咽喉科・臨床遺伝科の医師と看護師6名・看護補助者1名、言語聴覚士4名、受付事務3名で構成されています。頭頸部腫瘍患者さんの治療では、手術・化学療法・放射線治療における治療後の合併症予防や、疾患を抱え生活する患者さんの意思決定支援など、患者さんやご家族の思いをくみ取り、医師と連携して看護を実践しています。近年、難聴患者さんの人工内耳治療が発展し、年々治療件数が増加しています。小児難聴外来では、言語聴覚士と連携し、聞こえる楽しさを感じながら子供たちが成長発達していくことができるように関わっています。さらに、ソーシャルワーカーや院内の認定看護師とともにチーム医療に参画し、患者さんのより良い生活環境、QOL向上を考慮した看護の提供および病棟との連携をしています。

また、入院患者さんのリハビリテーション中の看護や摂食嚥下認定看護師の介入により嚥下訓練や評価を行っています。当外来では、思いやりとやさしさと常に目配り・気配り・心配りのできる看護をスタッフ一丸となり行っています。

（主任看護師 狐崎 豊子）



東9階B病棟

東9階B病棟は岩手県の大学病院整形外科として脊椎脊髓疾患や変形性関節症をはじめ骨、関節、靱帯、神経、筋肉など全身の運動器の疾患また外傷患者さんを受け入れています。化学療法などの保存的治療から年間約1200件の手術療法まで幅広い治療が行われています。早期社会復帰と日常生活に対応できるよう早期からリハビリテーションを行い、患者さんの個性を捉え自助能力を生かした看護介入を行っています。また、全国的にも高齢化率の高い岩手県では転院や退院後の生活様式を見据えて、退院後も健康的で安心した生活が送れるよう生活背景などの情報共有を行っています。そのため、入院中から理学療法士や作業療法士、入退院支援チーム、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士、事務職員と協働し、各々

の専門性を活かしたチーム医療を提供しています。社会復帰や自宅退院など明確な目標を築き、患者さんへ前向きに意識付けをしながら、一緒にゴールを目指し共に歩む看護実践を日々取り組んでいます。

（主任看護師 鈴木 祥子）



お知らせ 岩手県政150周年記念事業について

明治5年1月8日「盛岡県」から「岩手県」に改称されてから、令和4年1月をもって150周年を迎えました。また、明治9年の県域確定から令和8年で150周年を迎えます。岩手県では令和4年度から令和8年度までを「県政150周年記念期間」と位置付け、様々なイベントが行われますので、本学・本院に関わるイベントは本誌でもご紹介します。また、岩手県政150周年記念WEBサイト（<https://iwate150.jp/>）には本学の歴史についても触れられていますので、皆さんもぜひご覧ください。

■ロゴマークの使用

岩手県政150周年記念事業を広くPRするためにロゴマークが作成されています。ロゴマークは記念事業のPRを目的として誰でも使用することができます。



WEB サイトはこちら

すこやか

スポーツ医学講座 No. 113

緩和医療学科 講師 鴻巣 正史



岩手医科大学附属病院 緩和ケア病棟の紹介

本学は、皆様ご承知の通り「医療人たる前に誠の人間たれ」を学是として、『全人的地域総合医療』の実践を目指して歩みを進めて参りました。2019年9月の附属病院新築移転を機に緩和ケア病棟が新設されましたが、これは本学の理念を臨床並びに教育の場に具現化した一つの結果であると考えます。最期まで当院における診療を望まれる患者さんやご家族、あるいは近隣地域の方々の希望に沿うものである事はもちろん、医学部・歯学部・薬学部・看護学部の4学部を有する医療系総合大学として、医学を志す若人たちに「生と死をみつめる全人的医療」を深く学ぶ場としての役割を担っています。当院の緩和ケア病棟は、院内病棟型として最上階の東10階に25床（全室個室、一般病床17室、特床8室）を有しており、現在、常勤医師3名、看護師25名、看護補助者1名、医療事務1名のスタッフとともに、院内の多職種の方々の支えにより、患者さん一人一人を最期まで支えるホスピス型の病棟運営を行なっています。病棟にはゆったりとした椅子を配した広いラウンジ、患者さんとご家族が利用できる共用のキッチン、介護浴室や家族控え室（2部屋）を備え、落ち着いた療養環境を提供しています。



緩和ケア病棟ラウンジ

緩和ケア病棟は、2023年9月末で開設から4年を迎えました。開設から間もなくコロナ禍に見舞われ、病棟運営の舵取りも翻弄され続けて参りましたが、病棟全スタッフが知恵を絞り、力を合わせることで、この4年間に979人の方の療養を支えることができました。入院された方の約9割は当病棟で永眠されお帰りになりましたが、ご遺族から寄せられた数多のお言葉から、多くの患者さんに、幾許かの症状の緩和と心の安寧を届けられたのではないかと感じています。これからも「全人的苦痛」を抱えた患者さんやそのご家族の苦しみを少しでも和らげることが出来るよう、より質の高い緩和ケアの提供を目指して病棟一丸となって進んで参ります。



季節イベントの様子

岩手医科大学報編集委員

小川 彰	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池 いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田 留美子	

編集後記

今号トピックスに掲載の通り、久しぶりに「医大祭」が開催されました。コロナ禍以降開催がなく、数年前の内容を参考に、という大変な状況の中、実行委員の学生、また出店やイベントに関わった学生たちが力を合わせ、無事に開催できたこと、本当にお疲れ様でした！とお伝えしたいです。そして、薬学部4年生による筋肉注射（ワクチン接種）実習の紹介もありました。新型コロナウイルス対応への将来のニーズを見据えた新しい取り組み、今後ぜひ注目したいです。（編集委員 藤澤 美穂）

岩手医科大学報 第550号

発行年月日／令和5年11月30日
 発行／学校法人岩手医科大学
 編集委員長／小川 彰
 編集／岩手医科大学報編集委員会
 事務局／法人事務部 総務課
 TEL. 019-651-5111 (内線5452, 5453)
 FAX. 019-907-2448
 E-mail: kouhou@jiwate-med.ac.jp
 印刷／河北印刷株式会社
 盛岡市本町通2-8-7
 TEL. 019-623-4256
 E-mail: office@kahoku-ipm.jp